

神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

はしがき

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2007-03-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小林, 致広, Kobayashi, Munehiro メールアドレス: 所属:
URL	https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/1158

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



は し が き

本書は「中南米におけるエスニシティ研究班」としては、6冊目の報告集となる。最初の3集においては、ニカラグア、グアテマラ、メキシコにおける先住民族の権利や自治に関する基本資料や議論を紹介してきた。第4集目からは、おもにメソアメリカの先住民族を対象に、彼らの文化的多様性の形成や民族的アイデンティティの変動に焦点を当てた研究を行なってきた。第6集には6編の論文を収めることができた。

所収された論文が扱っている時期は、植民地時代初期から現代までにわたり、対象地域はメキシコ中央部のメキシコ盆地一帯やゲレロ州山岳部、そしてマヤ文化圏のユカタン州とチアパス州となっている。6名のうちの4名は、第4集や5集に論文を載せているが、残り2名は本論集への執筆は初めての「新人」である。2人とも、長年にわたる現地調査を重ねており、すでにその成果をいくつかの論文として発表している。

編者は、先住民への異端審問記録の分析から窺うことのできる植民地時代初期のメキシコ中央部での先住民社会の変容や分裂の様子を提示しようとした。井上幸孝は先住民による歴史記述という博士論文のテーマを発展させ、植民地時代後期に作成されたメキシコ盆地の権原証書におけるナウァ系の先住民共同体の「第二の創設」と境界の問題を論じている。小林貴徳は、メキシコ南部のゲレロ州山岳地域に居住する先住民族トラパネカの共同体における土地領有をめぐる紛争を取り扱っている。受田宏之は、メキシコ市に早くから移住している先住民族オトミーが展開してきた「不法占拠地」領有運動における援助と先住民側の指導性の問題を取り扱っている。吉田栄人は、前2回のユカタン半島のマヤにおける祭礼をめぐる研究に続き、今回は先住民の伝統的医療が独自性をもったものとして自己編成していくメカニズムとその論理について論じている。柴田修子は、チアパスの先住民女性たちによって展開されてきた運動が

「先進国のフェミニスト」に突きつけた問題を論じているメキシコ人研究者エルナンデス・カステージョの論文の紹介を行なっている。

学内におけるラテンアメリカ研究者の定年による不在という状況が近づきつつあり、研究班を構成する場合の要件のひとつ「学内研究者2名以上」という条件が充足できなくなる時が目の前にぶら下がっている。来年度に研究班が組織できた場合、今回、載せることのできなかつた若手研究者の労作をぜひとも掲載できればと念じている。

2006年10月

研究班代表 小林 致 広